

平成29年度就職・採用活動に関する調査(大学等)

速報版(概要)

平成29年11月

就職問題懇談会
(事務局:文部科学省)

調査概要

調査目的

就職・採用活動の状況を把握し、今後の就職・採用活動の円滑な実施の検討に資する。

調査主体

就職問題懇談会（事務局：文部科学省）

実施方法

対象：全国の国公立大学、短期大学 合計1, 115校

方法：調査票の送付

期間：平成29年7月13日(木)～8月10日(木)

※8月1日現在の状況を回答

回答率

発送数：1, 115件

有効回答件数：1, 037件

回答率：93.0%

【内訳】

国立大学	100.0%	公立短期大学	88.2%
公立大学	94.4%	私立短期大学	81.2%
私立大学	98.2%		

属性

① 学校種別

調査回答大学数	国立大学	公立大学	私立大学	公立短期大学	私立短期大学
1,037	86	84	593	15	259
100%	8.3%	8.1%	57.2%	1.4%	25.0%

② 地域

調査回答大学数	北海道・東北	関東(東京以外)	東京	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
1,037	121	169	160	188	194	95	110
100%	11.7%	16.3%	15.4%	18.1%	18.7%	9.2%	10.6%

【留意点】 この「速報版(概要)」で「大学」と表記しているところは、特に断りがない限り大学と短期大学の両方を含むものとして使用している。

就職問題懇談会「申合せ」の周知状況等

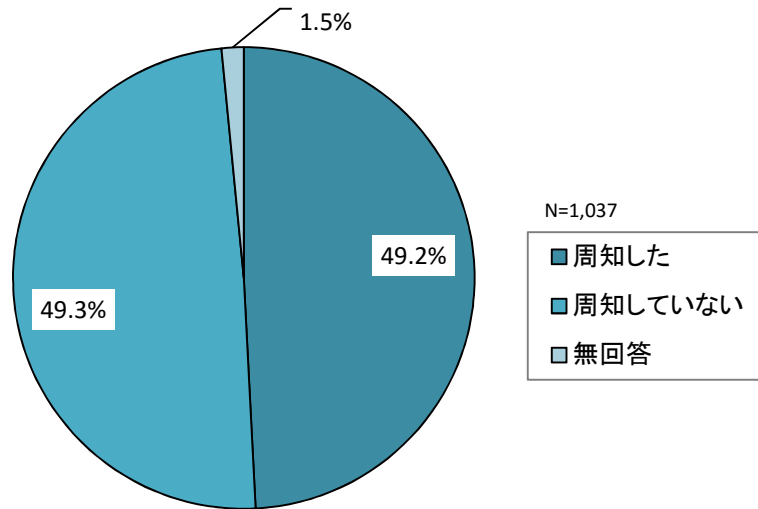
<周知状況>

就職問題懇談会「申合せ」を企業へ周知した大学等
49.2% (+1.1ポイント)

<周知しなかった理由>

「既に就職問題懇談会や政府から企業へ周知しているため」
55.8%
「就職先が公的機関、医療機関、幼稚園、保育園などの企業
以外であるため必要がない」24.3%

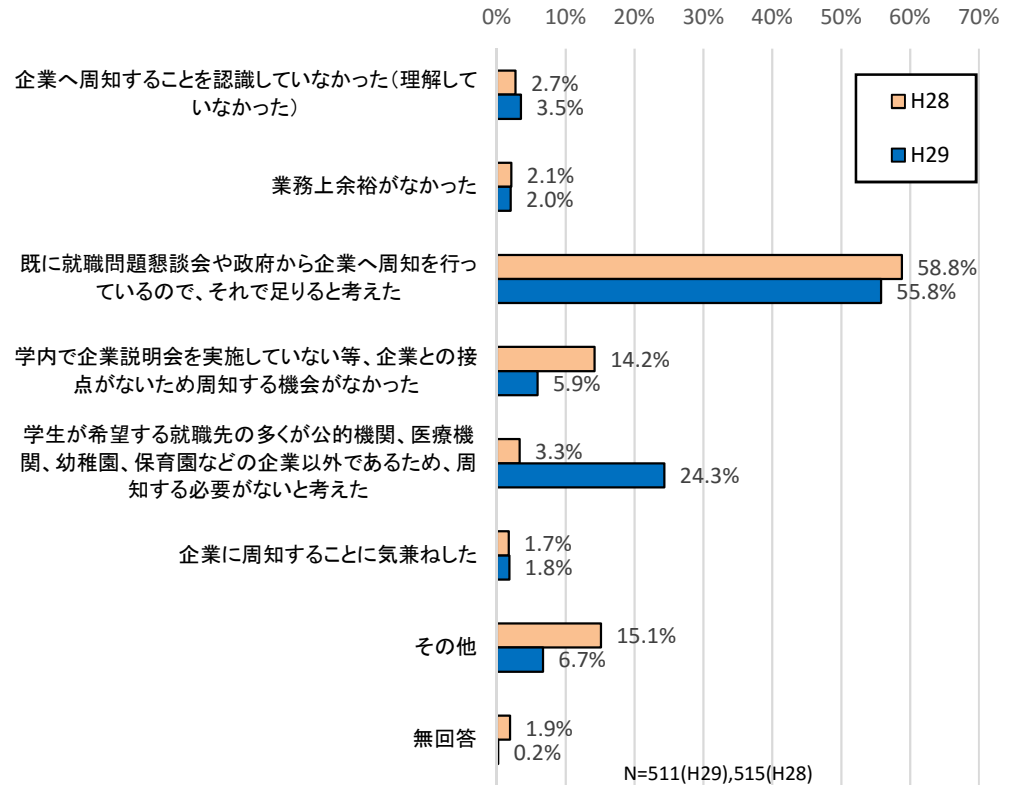
【「申合せ」の就職活動開始時期の遵守や学生の学業への配慮の周知】



<参考:昨年度調査>

周知した48.1% 周知していない51.2%

【周知しなかった理由】



※単一回答(理由として最も大きいものを一つ選択)

※周知していないと回答した511校に質問

※H28の選択肢は「学生が希望する就職先の多くが公的機関であるため、企業に対して周知する必要がないと考えた」としており、医療機関、幼稚園、保育園を含めていなかった。

広報活動開始時期

<全体>

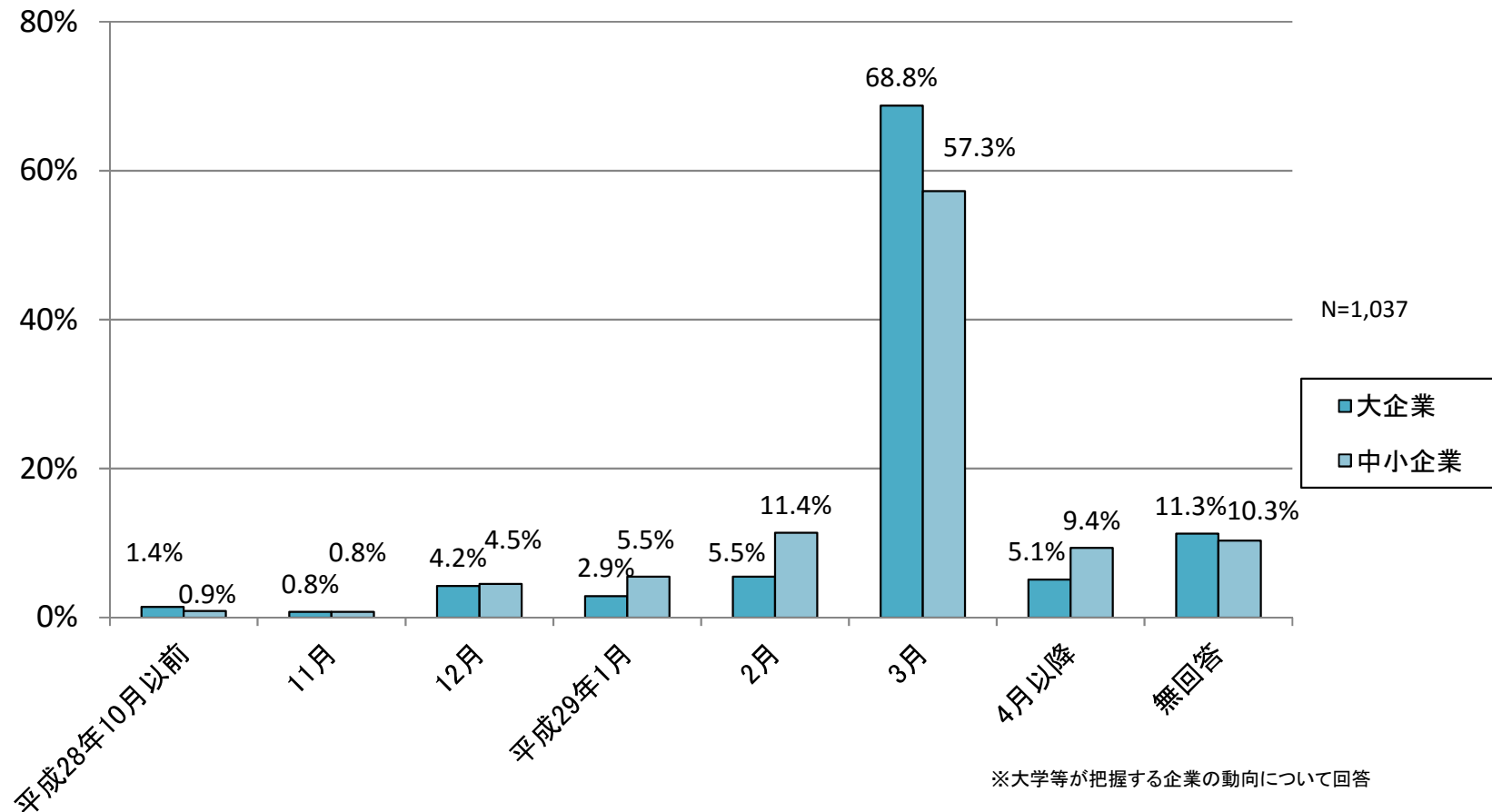
企業の広報活動は「3月」開始と認識している大学等が最も多い。

<企業規模別>

(大企業) 大企業の広報活動は「3月」開始と認識している大学等が最も多く、68.8%である。73.9%の大学等が3月以降に開始していると認識。

(中小企業) 中小企業の広報活動は「3月」開始と認識している大学等が最も多く、57.3%である。66.7%の大学等が3月以降に開始していると認識。

【多くの企業が広報活動を開始した時期は概ねいつ頃ですか】



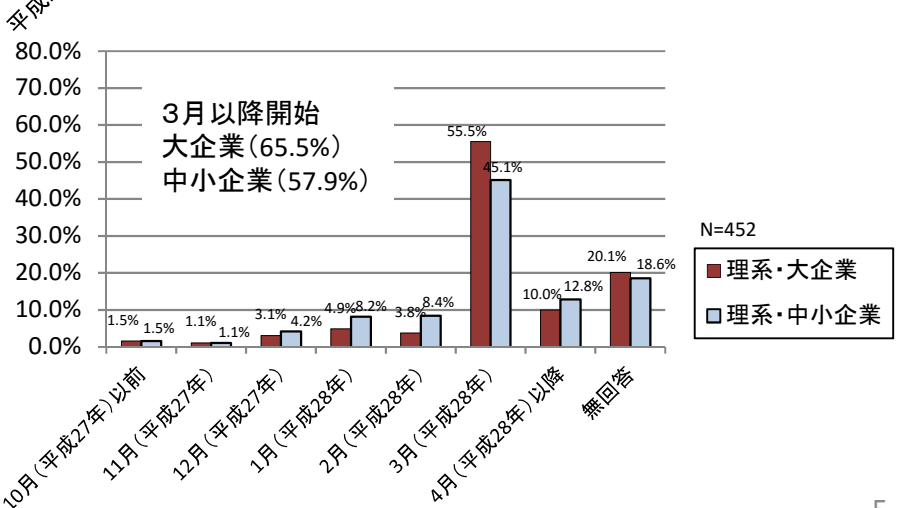
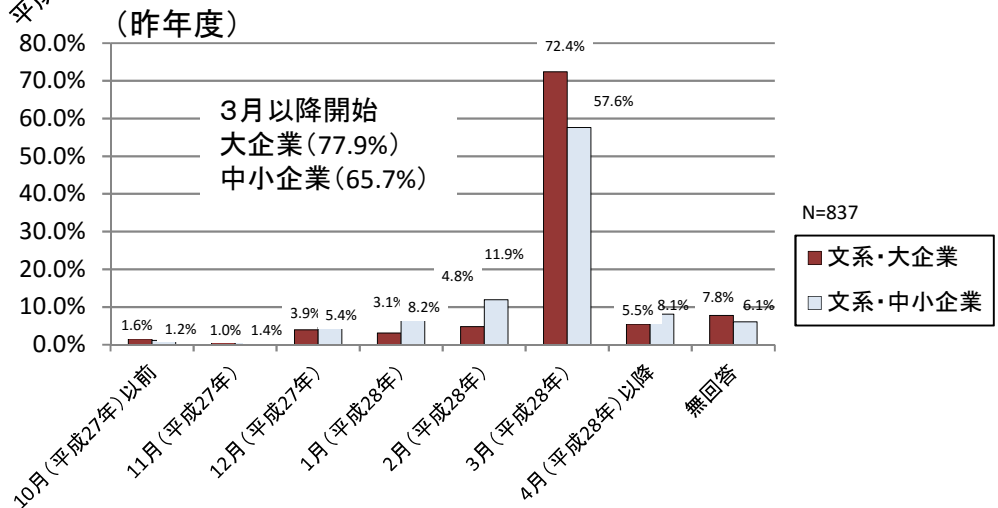
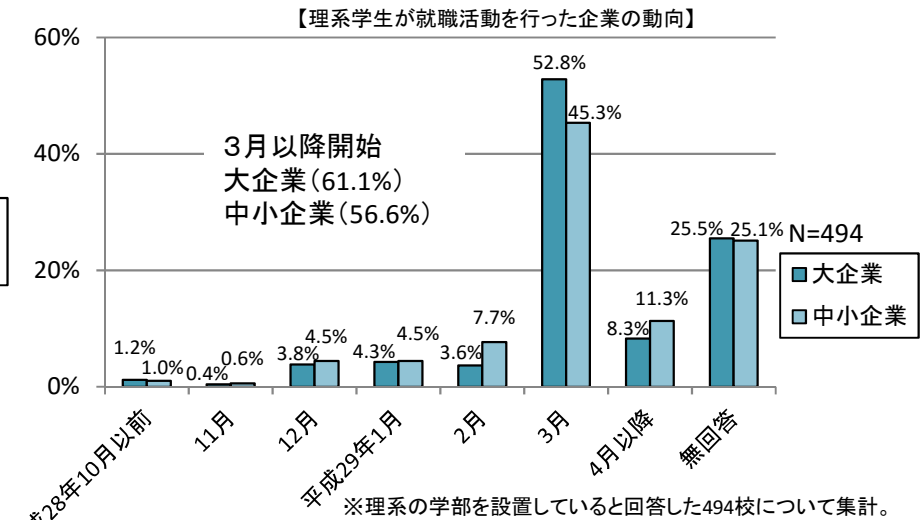
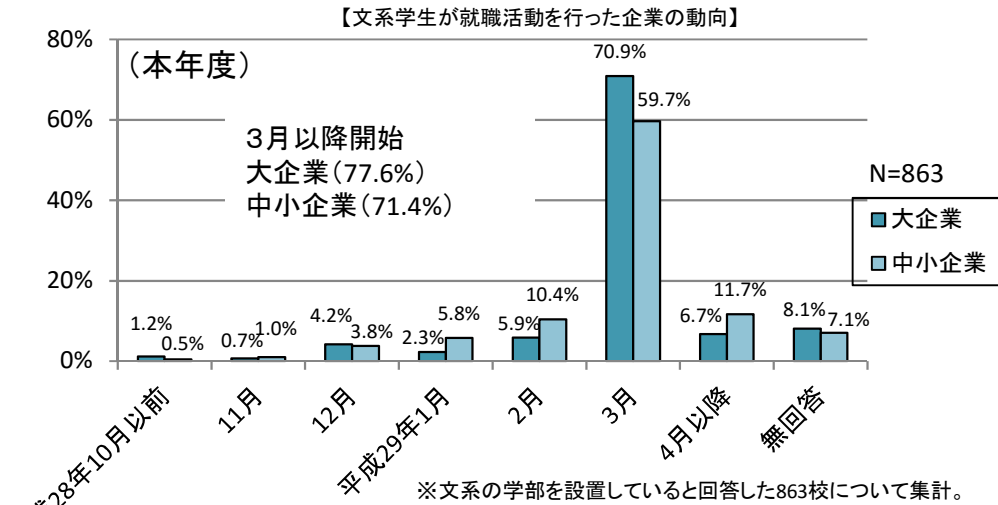
※大学等が把握する企業の動向について回答

広報活動開始時期（昨年度との比較）

- ◆ 広報活動は「3月」開始と認識している大学等が最も多いことは昨年度と同じ。
- ◆ 3月以降と認識している大学等を昨年度と比べると、大企業に関しては減っており、中小企業に関しては増えている。

【企業の広報活動は3月以降に開始と認識している大学等の割合】

文系学生が就職活動を行った企業：	大企業	77.6% (▲0.3ポイント)
	中小企業	71.4% (+5.7ポイント)
理系学生が就職活動を行った企業：	大企業	61.1% (▲4.4ポイント)
	中小企業	56.6% (▲1.3ポイント)



※昨年度調査では、企業全体の動向ではなく、文系／理系の学生が就職活動をおこなった企業の動向を調査したため、文理別で比較。

採用選考活動開始時期

<全体>

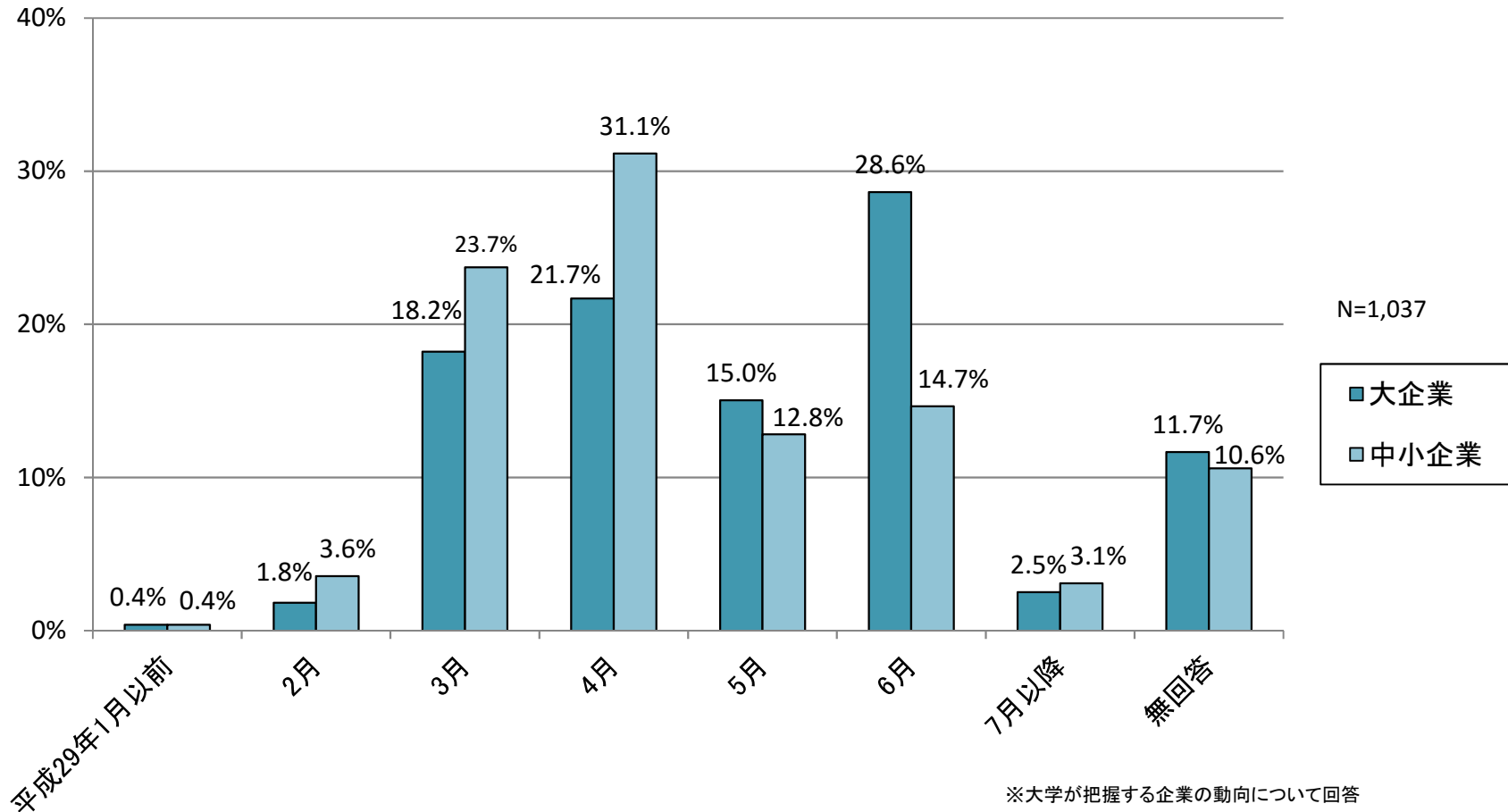
企業の採用選考活動は「3月～4月」と「6月」に開始と認識している大学等が多い。

<企業規模別>

(大企業) 大企業の採用選考活動は「6月」開始と認識している大学等が最も多く、28.6%である。57.1%の大学等が6月より前に開始していると認識。

(中小企業) 中小企業の採用選考活動は「4月」開始と認識している大学等が最も多く、31.1%である。71.6%の大学等が6月より前に開始していると認識。

【多くの企業が採用選考活動を開始した時期は概ねいつ頃ですか】



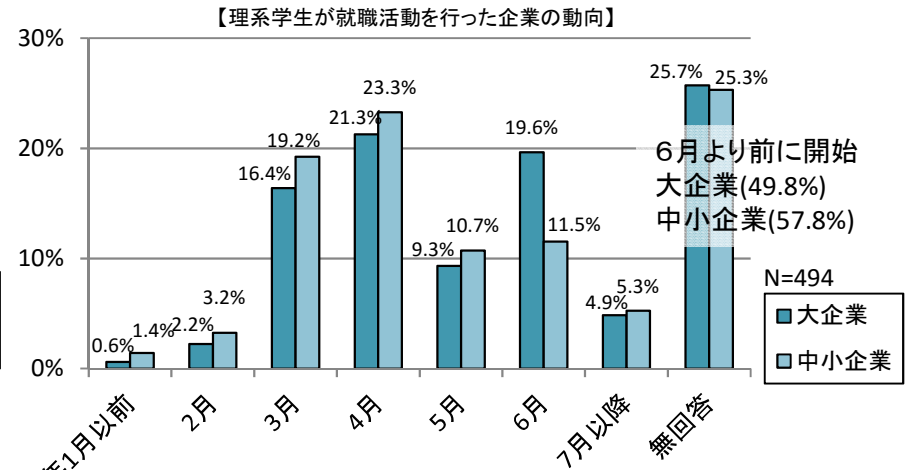
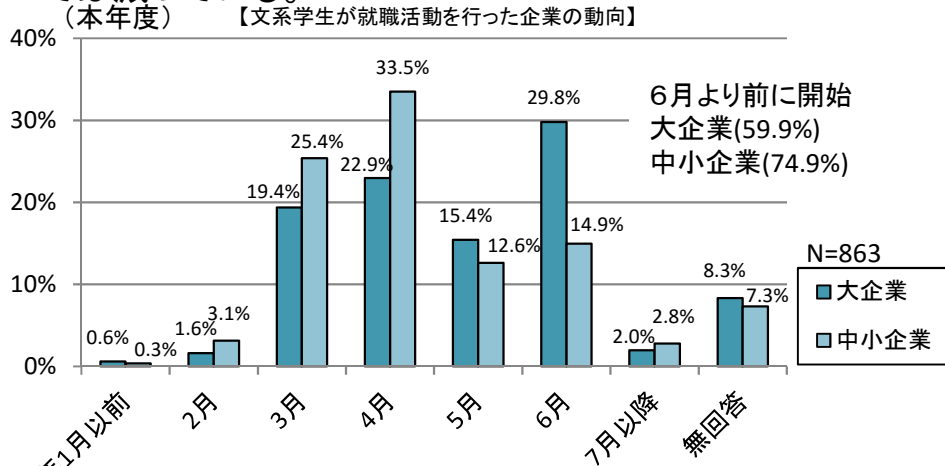
※大学が把握する企業の動向について回答

採用選考活動開始時期（昨年度との比較）

- ◆ 採用選考活動は、中小企業は「4月」、大企業は「6月」開始と認識している大学等が多いことは昨年度と同じ。
- ◆ 6月より前に開始されたと認識している大学等を、昨年度と比べると、大企業に関しては、増えており、中小企業に関しては減っている。

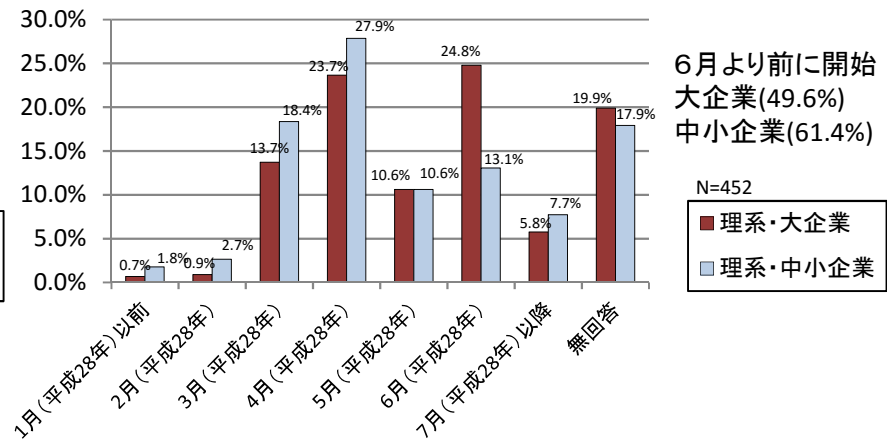
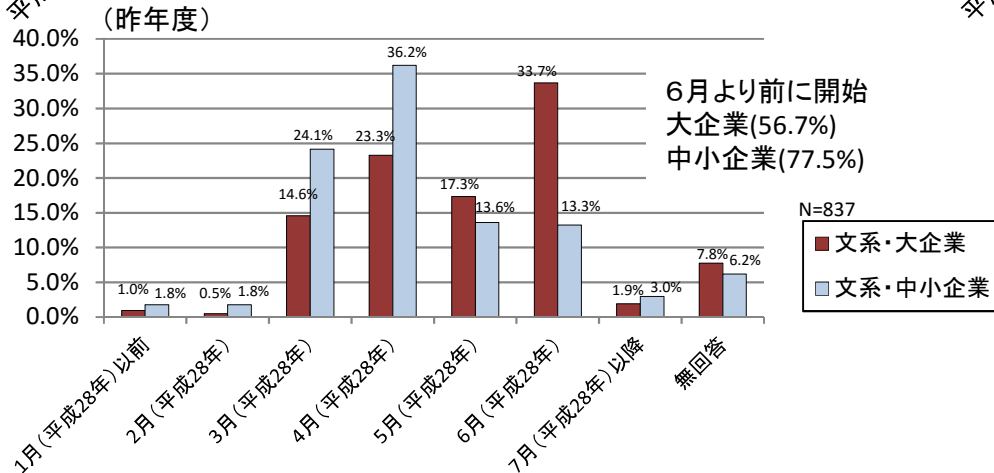
【企業の採用選考活動は6月より前に開始と認識している大学等の割合】

文系学生が就職活動を行った企業：大企業59.9%（+3.2ポイント）
 中小企業74.9%（▲2.6ポイント）
 理系学生が就職活動を行った企業：大企業49.8%（+0.2ポイント）
 中小企業57.8%（▲3.6ポイント）



※文系の学部を設置していると回答した863校について集計。

※理系の学部を設置していると回答した494校について集計。



※昨年度調査では、企業全体の動向ではなく、文系／理系の学生が就職活動をおこなった企業の動向を調査したため、当該データにて比較。

学生が内々定を得た時期

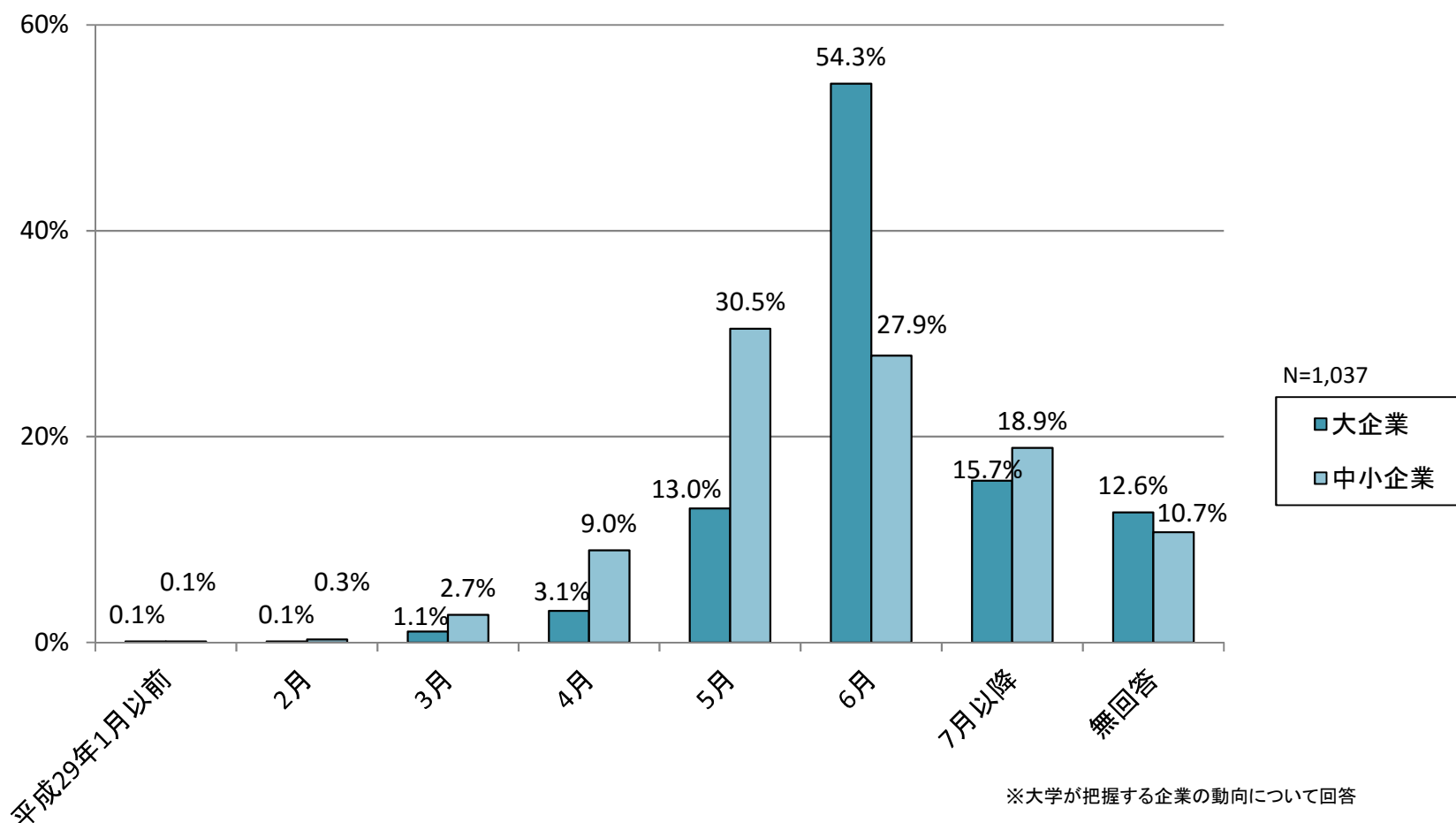
<全体>

5月～6月に学生が内々定を得たとの回答が多い。

<企業規模別>

(大企業)「6月」と回答した大学等が最も多く、54.3%
続いて「7月以降」(15.7%)、「5月」(13.0%)
(中小企業)「5月」と回答した大学等が最も多く、30.5%
続いて「6月」(27.9%)、「7月以降」(18.9%)

【学生が最初に内々定を得た時期】

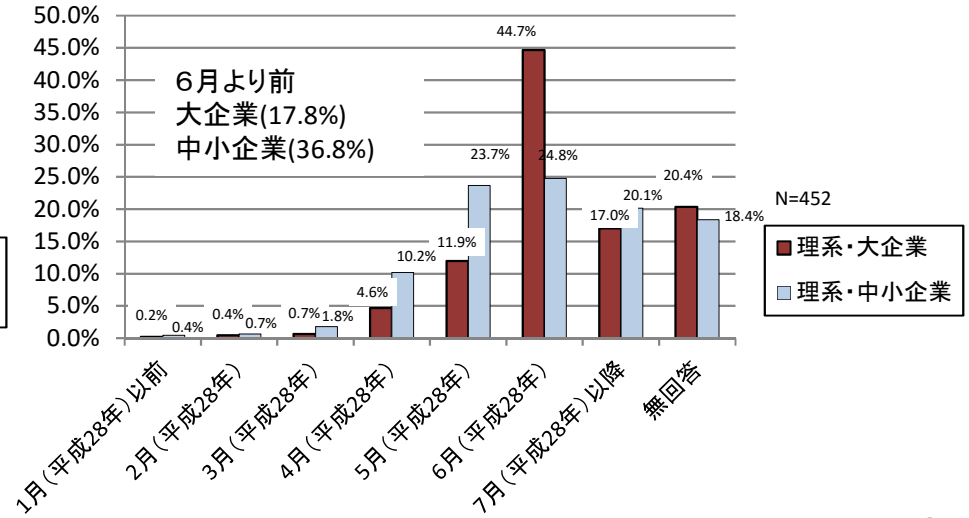
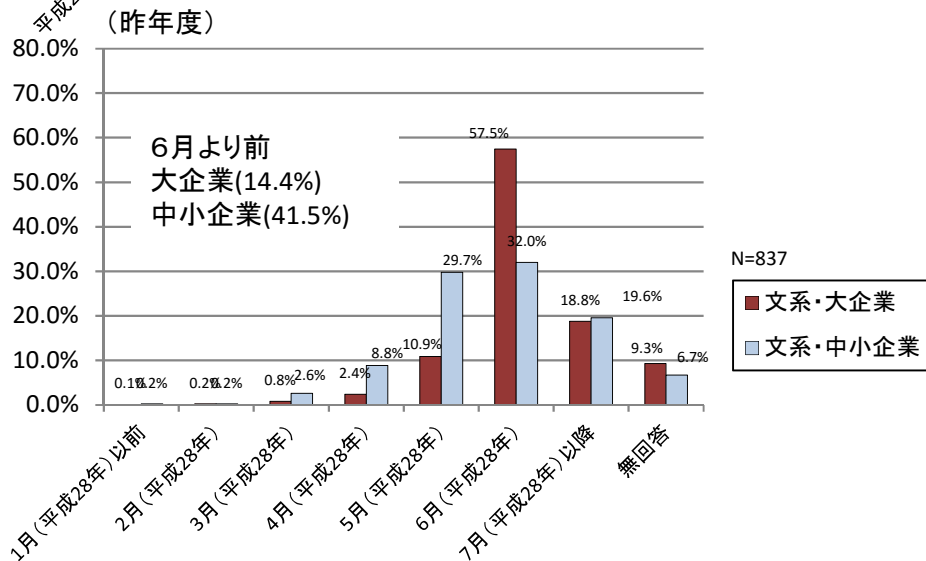
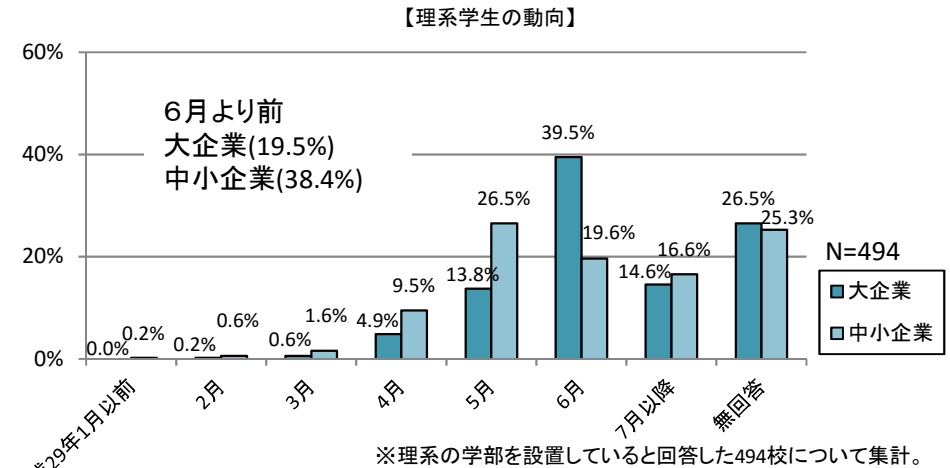
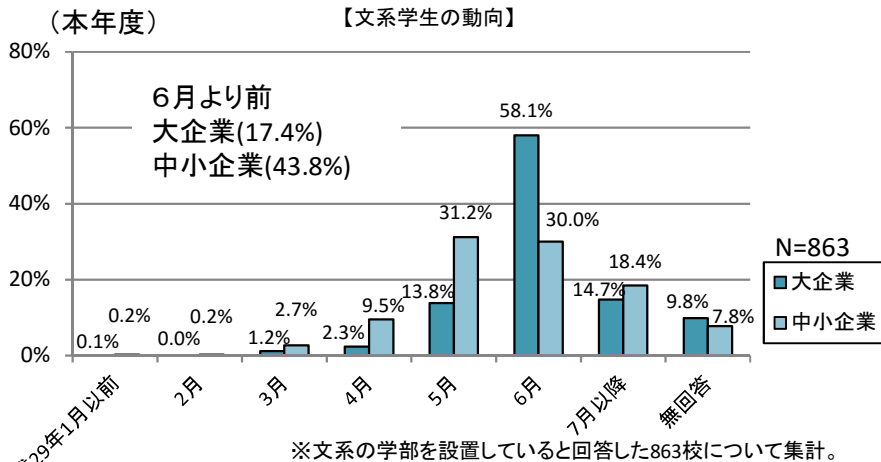


学生が内々定を得た時期（昨年度との比較）

- ◆中小企業に関しては「5月」と「6月」、大企業に関しては「6月」との回答が最も多いことは変わらない。
- ◆6月より前に内々定を得たとの回答は、昨年度に比べ多くなっている。

【学生が内々定を得た時期は6月より前との回答割合】

文系学生：	大企業	17.4%	(+3.0ポイント)
	中小企業	43.8%	(+2.3ポイント)
理系学生：	大企業	19.5%	(+1.7ポイント)
	中小企業	38.4%	(+1.6ポイント)



※昨年度調査では、学生全体の動向ではなく、文系/理系学生の動向を調査したため、当該データにて比較。

就職活動を終了した時期（8月1日時点）

<全体>

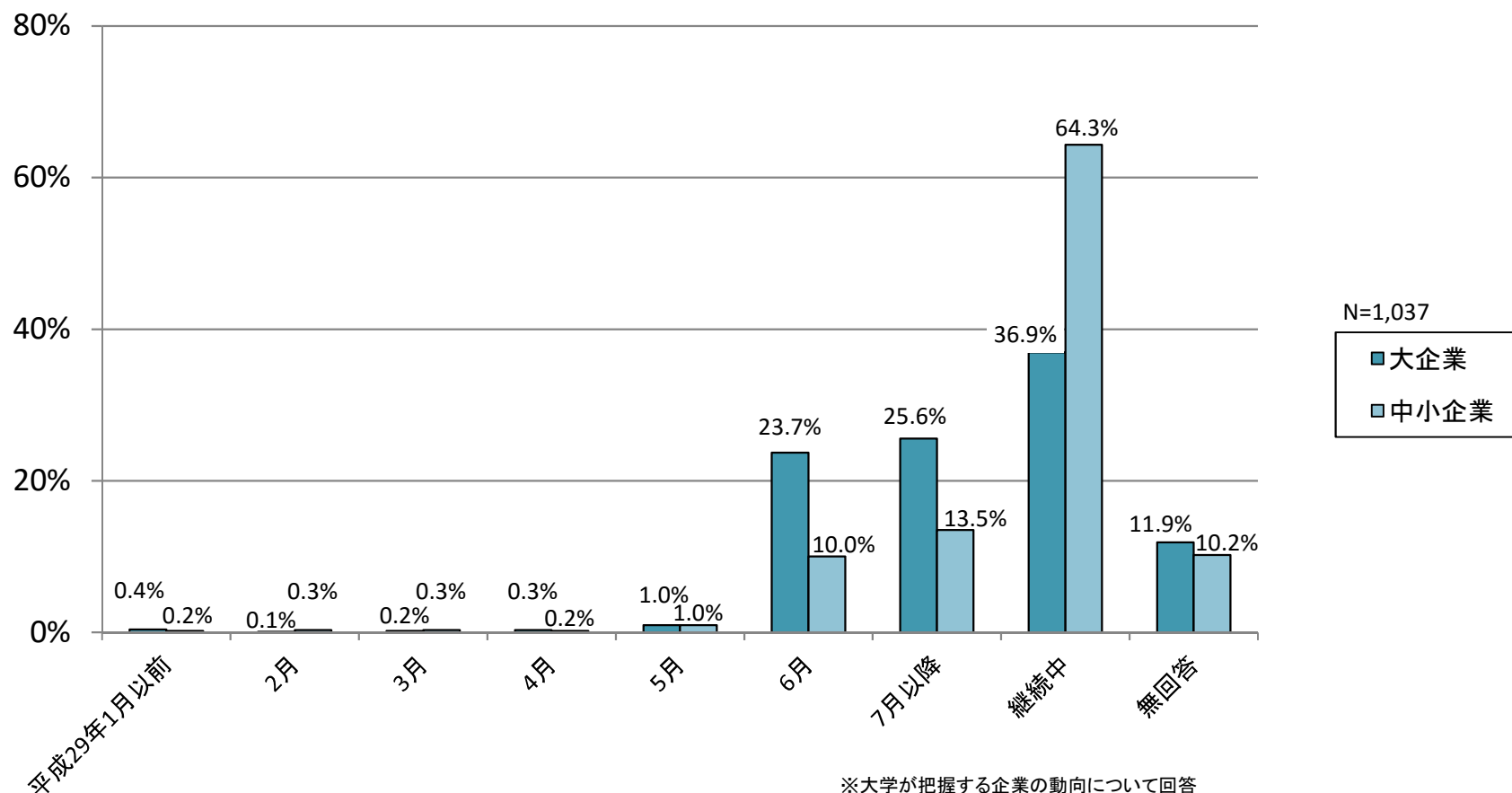
学生の就職活動は8月1日時点で「継続中」との回答が最も多い。

<企業規模別>

（大企業）「継続中」と回答した大学等が最も多く、36.9%
次いで、「7月以降」（25.6%）

（中小企業）「継続中」と回答した大学等が最も多く、64.3%
次いで「7月以降」（13.5%）であった。

【就職活動を終了した時期】（8月1日現在）

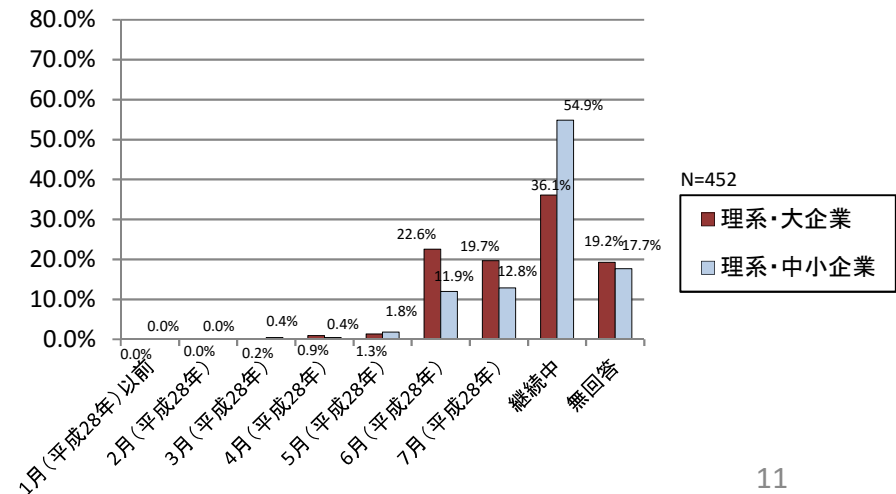
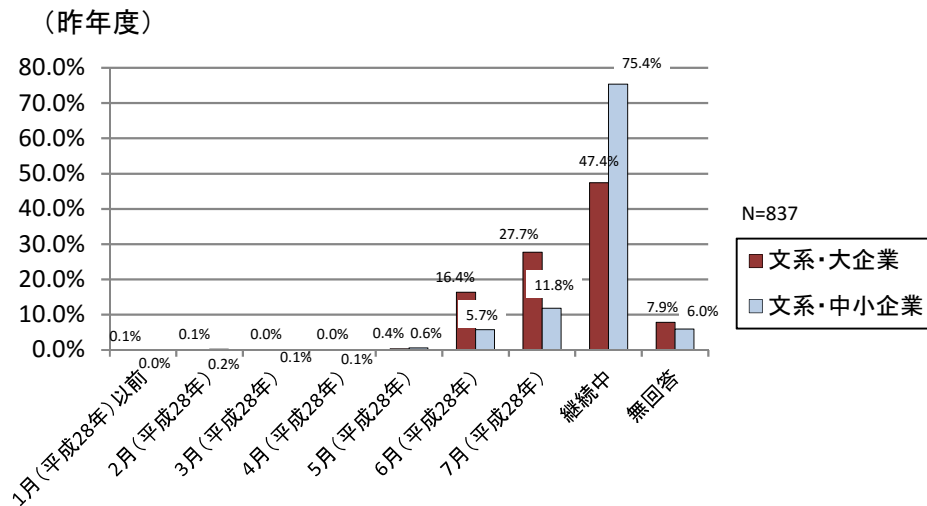
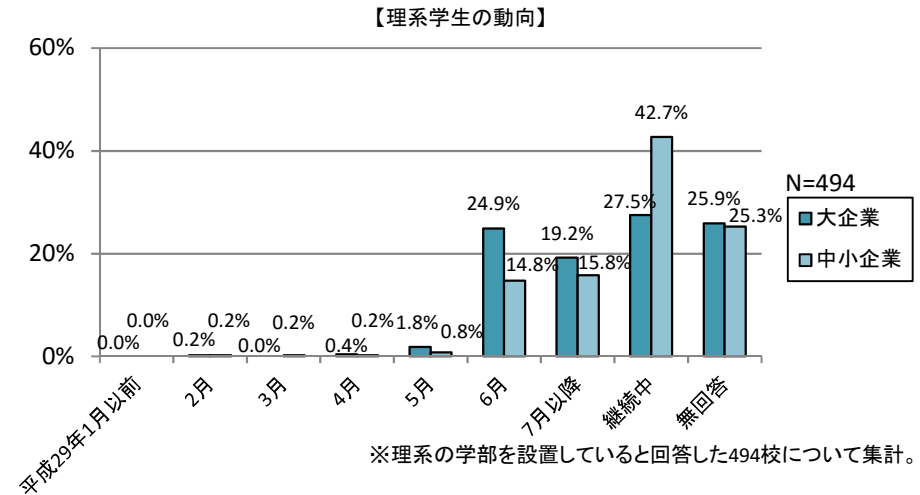
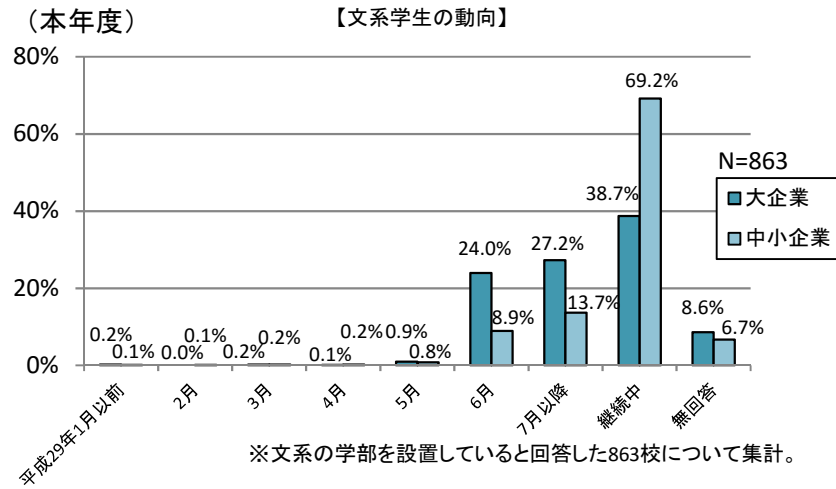


就職活動を終了した時期（昨年度との比較）

◆ 昨年度と比べると、「継続中」との回答が最も多いことは同じであるが、回答割合が低くなっている

【学生の就職活動が継続中であるとの回答割合】

文系学生：大企業 38.7% (▲8.7ポイント)
 中小企業 69.2% (▲6.2ポイント)
 理系学生：大企業 27.5% (▲8.6ポイント)
 中小企業 42.7% (▲12.2ポイント)



※昨年度調査では、学生全体の動向ではなく、文系／理系学生の動向を調査したため、当該データにて比較。

就職・採用活動開始時期の後ろ倒しの影響

平成27年度～平成29年度卒業・修了(予定)者については、広報活動開始時期が3月1日以降となり、全体として就職・採用活動の後ろ倒しが続いていることについて

<良い影響があった項目>

- ・学生が学部3年次の後期試験に落ち着いて取り組めるようになった(35.8%)
 - ・学部3年次の後期授業への出席 (32.9%)
 - ・卒業・修了前年度までの、学生のインターンシップの参加促進 (32.9%)
 - ・卒業・修了前年度までの、学生の授業やゼミの学修時間の確保 (32.1%)
- また、昨年度と比べると、いずれの項目も良い影響との回答割合が高くなっている。

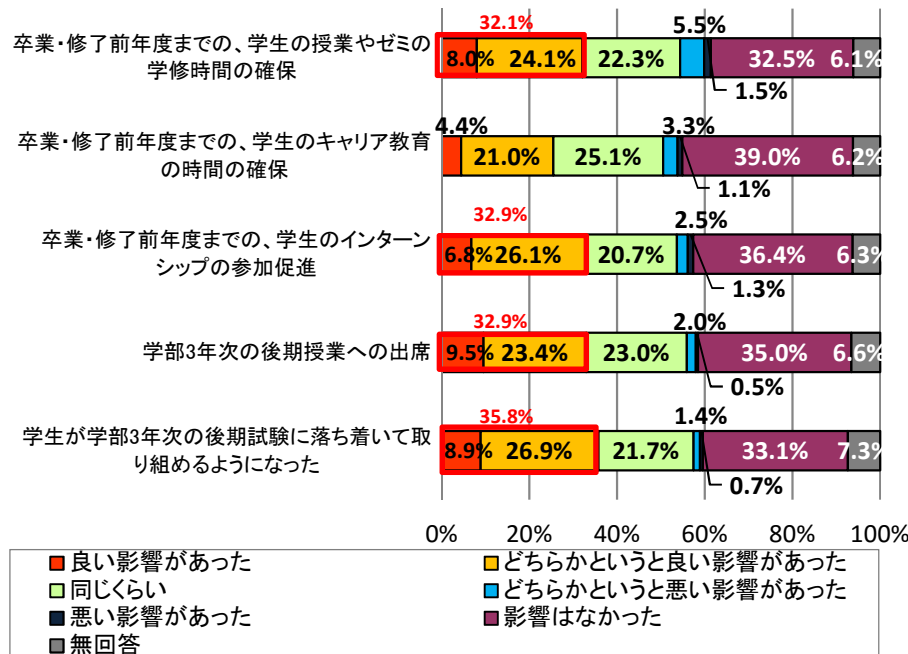
※「良い影響があった」「どちらかといと良い影響があった」の合計、上位4つ

【広報活動開始時期が卒業・修了前年度の3月1日以降となり、就職・採用活動の開始時期の後ろ倒しが続いていることについて、どのような影響がありましたか】

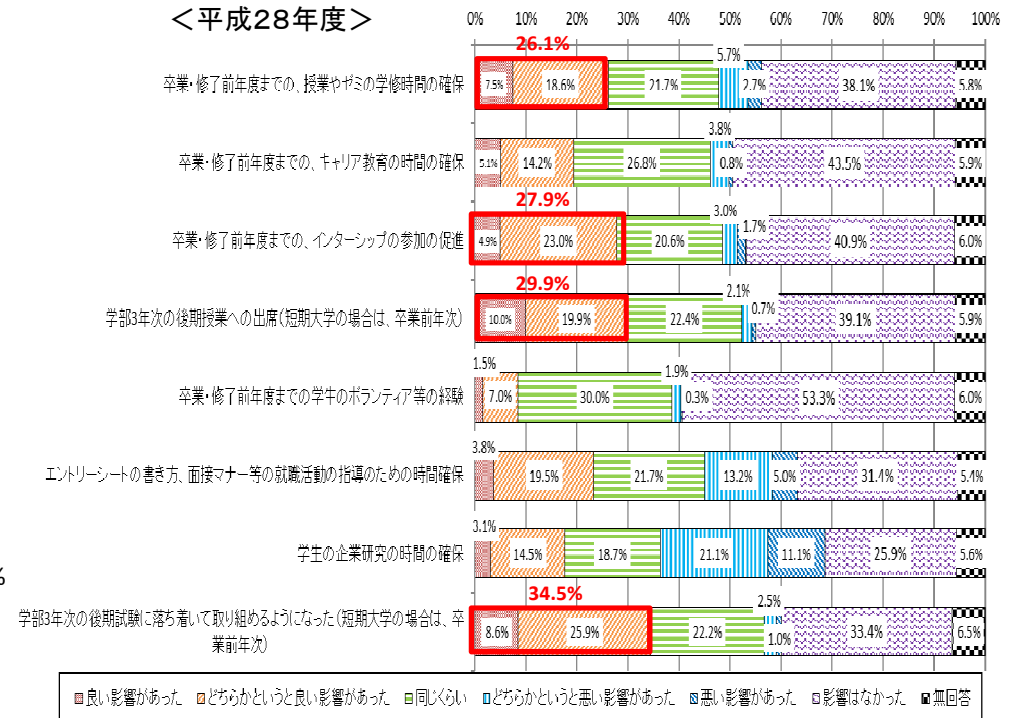
N=1,005

<平成29年度>

N=1,037



<平成28年度>



就職・採用活動時期が同じ時期となったことについて（良い影響）

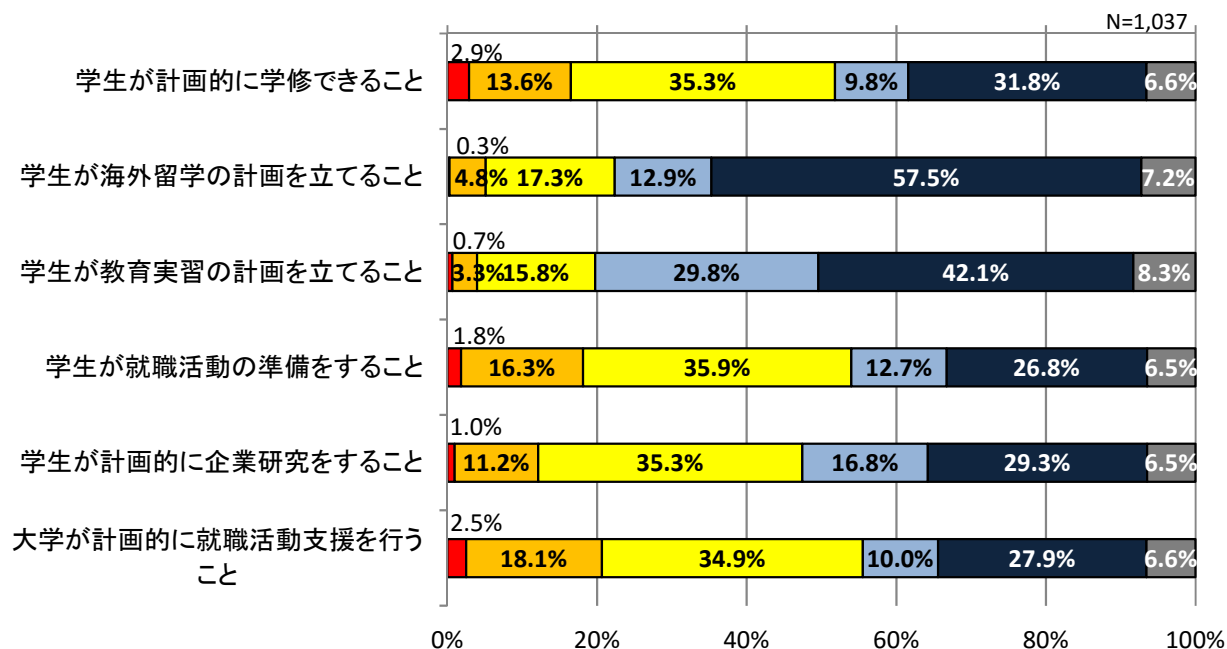
就職・採用活動開始時期が、昨年度と同じ時期（広報活動3月、採用選考活動6月）に設定されたことについて

<良い影響があったと思うこと>

- ・大学が計画的に就職活動支援を行うこと（55.5%）
- ・学生が就職活動の準備をすること（54.0%）
- ・学生が計画的に学修できること（51.8%）

※「非常に良い影響があった」「良い影響があった」「ある程度良い影響があった」の合計、上位3つ

【就職・採用活動開始時期が昨年度と同じ時期（広報活動3月1日以降、採用選考活動6月1日以降）に設定されたことについて、良い影響があったと思うこと】

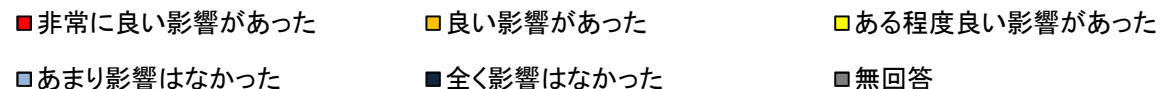


【参考：昨年度調査】

採用選考活動が8月から6月に変更になったことによる良い影響
 （「非常に良い影響があった」「良い影響があった」「ある程度良い影響があった」の合計）

- ・授業やゼミの学修時間を確保すること（22.6%）
- ・学生が夏休みに海外留学を検討すること（19.0%）

※関連部分のみ記載。（昨年度調査の関係図表は速報版本体に掲載）
 ※昨年度は、採用選考活動を8月から6月に変更した年であり、開始時期が維持された今年度の状況とは違うことに留意すること。



就職・採用活動時期が同じ時期となったことについて（課題）

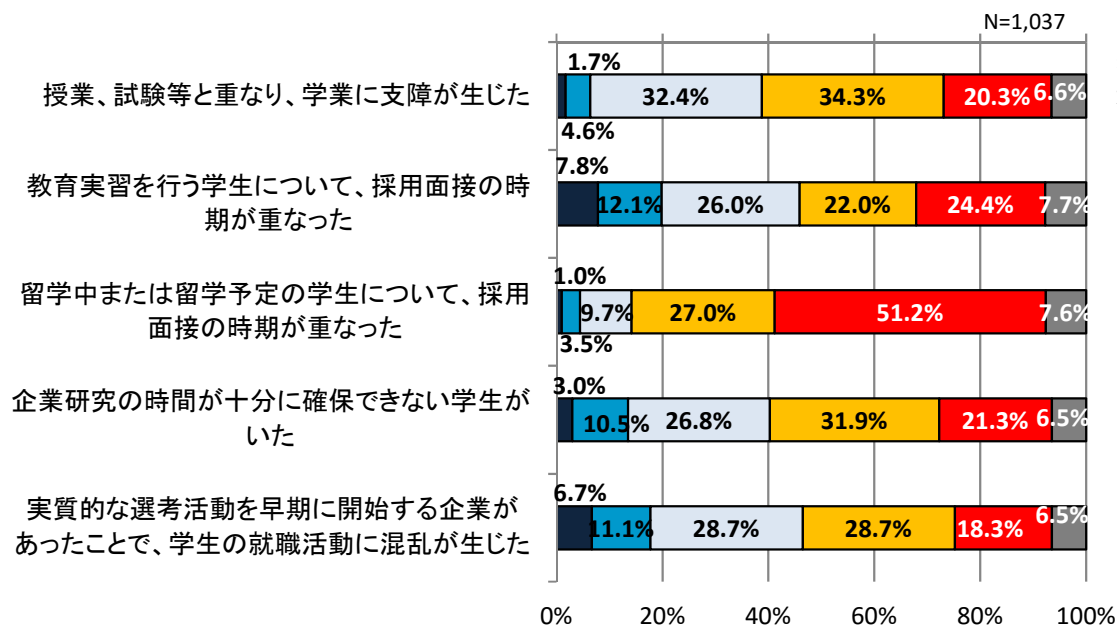
就職・採用活動開始時期が、昨年度と同じ時期（広報活動3月、採用選考活動6月）に設定されたことについて

＜課題となったこと＞

- ・実質的な選考活動を早期に開始する企業があったことで、学生の就職活動に混乱が生じた（46.5%）
- ・教育実習を行う学生について、採用面接の時期が重なった（45.9%）
- ・企業研究の時間が十分に確保できない学生がいた（40.3%）

※「非常に大きな課題となった」「大きな課題となった」「ある程度課題となった」の合計、上位3つ

【就職・採用活動開始時期が昨年度と同じ時期（広報活動3月1日以降、採用選考活動6月1日以降）に設定されたことについて、課題となったこと】

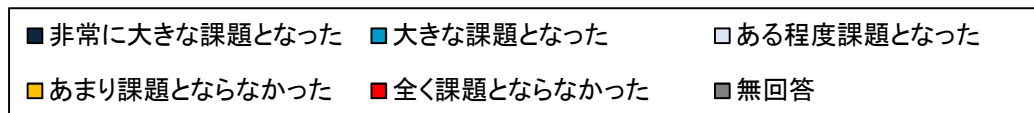


【参考：昨年度調査】

採用選考活動が8月から6月に変更になったことにより課題となったこと（「非常に大きな課題となった」「大きな課題となった」「ある程度課題となった」の合計）

- ・授業、試験と重なり、学業に支障が生じた（46.2%）
- ・教育実習と企業の面接時期が重なる学生がおり、教育実習受け入れ先との調整が必要となった（41.7%）
- ・留学中の学生について、面接の時期が重なり、留学先との調整が必要となった（12.1%）
- ・企業に関する情報収集の期間や就職先決定までの期間が短くなり企業研究や就職先の選択のための時間が確保できなくなった学生がいた（55.3%）
- ・実質的な選考活動を早期に開始する企業があったことで学生の就職活動に混乱が生じた（51.8%）

※関連部分のみ記載。（昨年度調査の関係図表は速報版本体に掲載）
 ※昨年度は、採用選考活動を8月から6月に変更した年であり、開始時期が維持された今年度の状況とは違うことに留意すること。

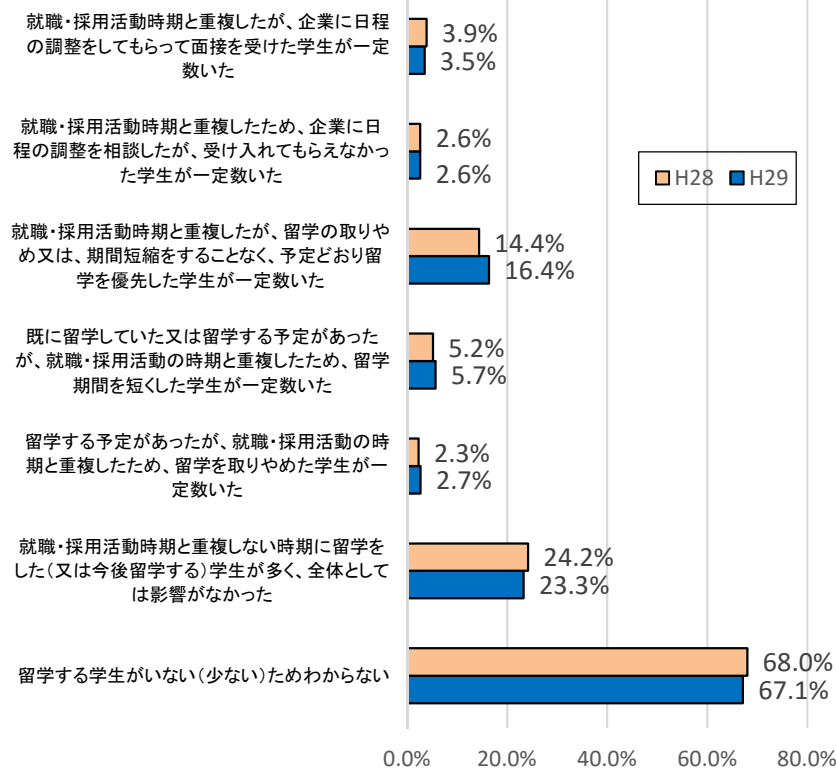


留学・教育実習への影響

<留学>

- 「わからない」を除くと、「影響がなかった」(23.3%)が最も多く、次いで、「取りやめ又は期間短縮することなく、予定通り留学を優先した学生が一定数いた」(16.4%)との回答が多かった。
- 昨年度と比べ、「取りやめ又は期間短縮することなく、予定通り留学を優先した学生が一定数いた」は2.0ポイント高い。

【留学経験者への影響】



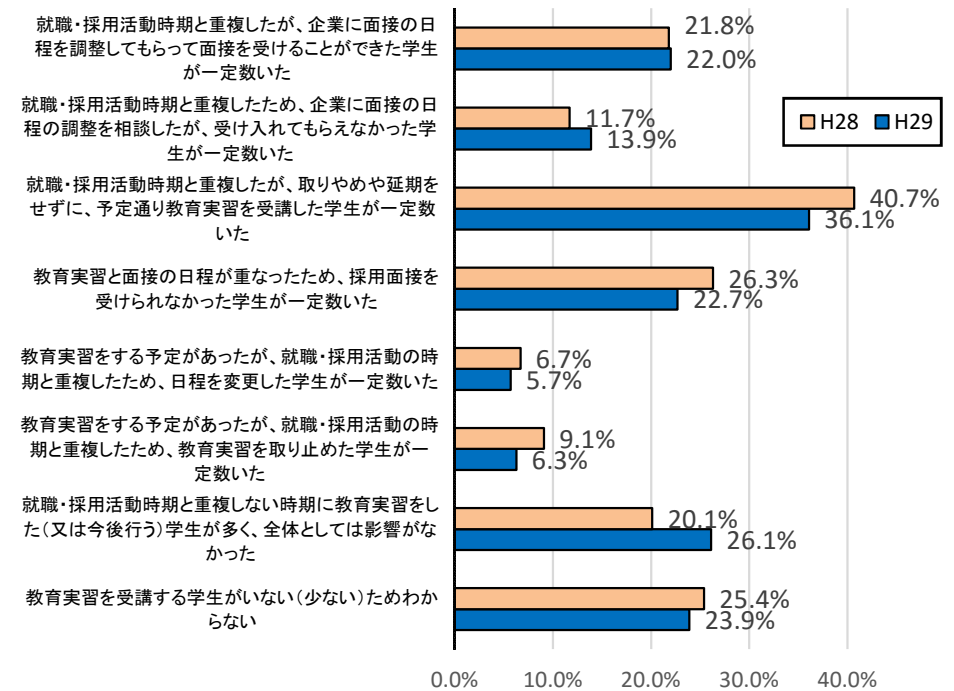
N=971(H29),953(H28)

※当てはまるものを最大3つまで選択 ※無回答66校を除外

<教育実習>

- 「予定通り受講」(36.1%)、「影響はない」(26.1%)、「面接を受けられなかった」(22.7%)との回答が多かった。
- 昨年度と比べると「就職・採用活動時期と重複しない時期に教育実習をした学生が多く、全体として影響はなかった」との回答は、6.0ポイント高い。
- 一方で「就職・採用活動時期と重複したため、企業に面接の日程の調整を相談したが、受け入れてもらえなかった学生が一定数いた」との回答は2.2ポイント高い。

【教育実習受講者への影響】



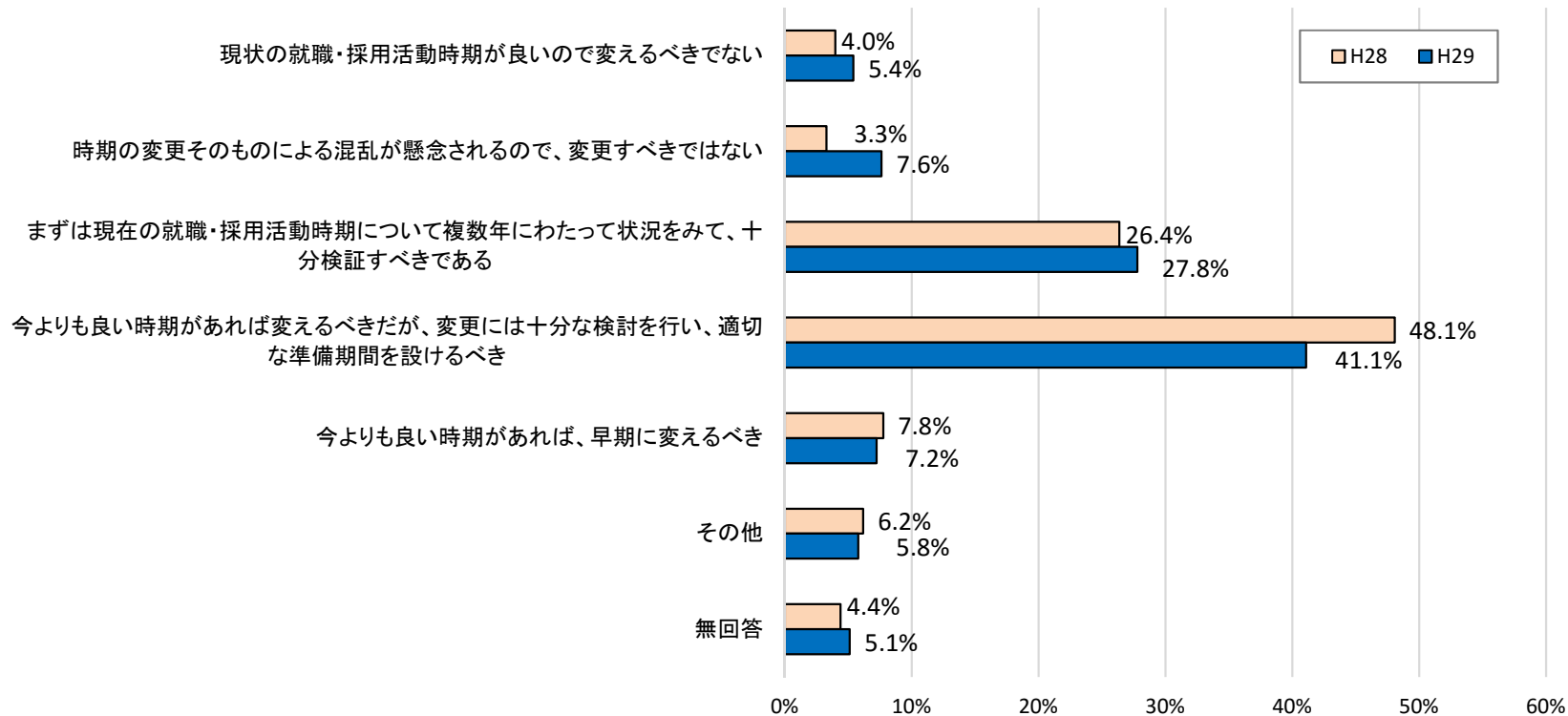
N=962(H29), 945(H28)

※当てはまるものを最大3つまで選択 ※無回答を75校除外

就職・採用活動時期の変更についてどのように考えるか

- ◆ 「今よりも良い時期があれば変えるべきだが、変更には十分な検討を行い、適切な準備期間を設けるべき」（41.1%）が最も高い。
- ◆ 昨年度と比べると、「今よりも良い時期があれば変えるべきだが、変更には十分な検討を行い、適切な準備期間を設けるべき」は7.0ポイント低い。その一方で「時期の変更そのものによる混乱が懸念されるので変更すべきではない」が4.3ポイント高い。

【就職・採用活動開始時期を変更することについてどのように考えていますか】



※単一回答

N=1,037(H29),1,005(H28)

就職・採用活動における学生に対する企業の配慮

○ 配慮している>配慮していない

「個別の面接日時等の設定に当たり、余裕をもって連絡が行われていた。」など、6項目

○ 配慮している<配慮していない

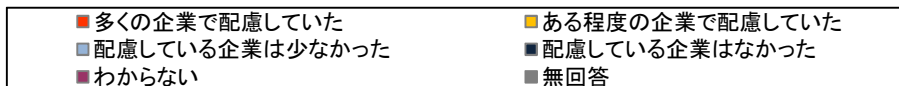
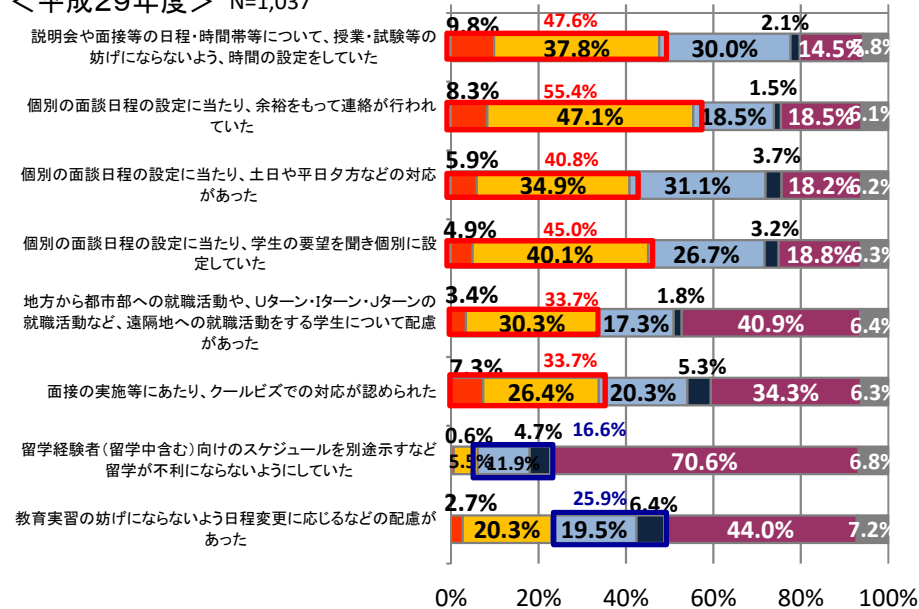
「留学経験者向けのスケジュールを別途示すなど留学が不利にならないようにしていた」
「教育実習の妨げにならないよう日程変更に応じるなどの配慮があった」

「配慮している」との回答割合のみに着目した場合、昨年度よりも高くなっている項目が多い。

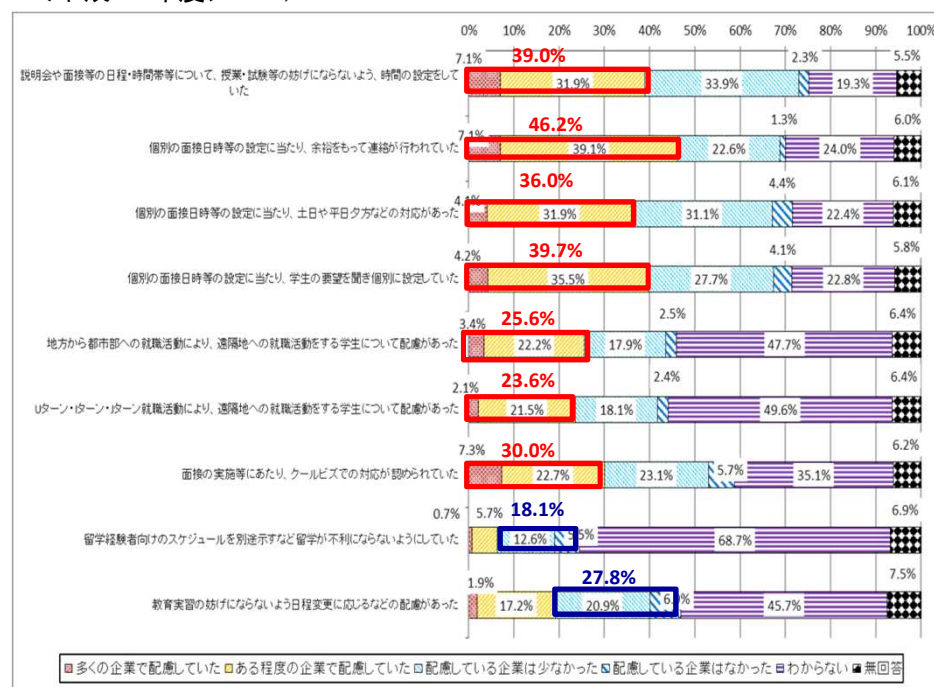
(※)「配慮している」とは、「多くの企業で配慮していた」「ある程度の企業で配慮していた」の合計。
「配慮していない」とは、「配慮していた企業は少なかった」「配慮している企業はなかった」の合計。

【就職・採用活動について企業側は学生に配慮をしていましたか】

<平成29年度> N=1,037



<平成28年度> N=1,005

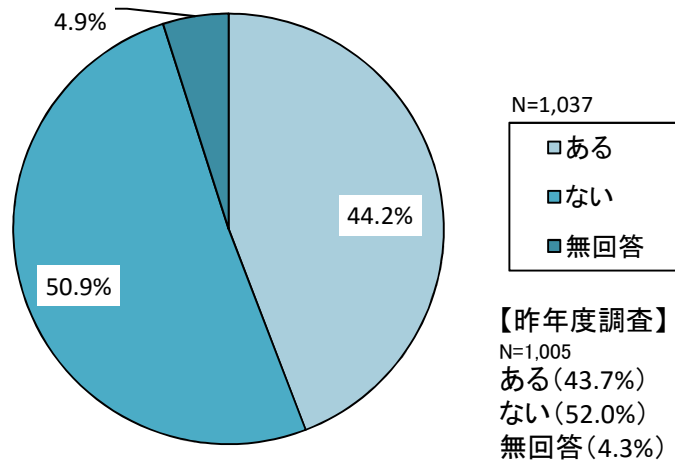


学業と面接が重なった際の企業の対応

<学生からの企業に配慮してほしい旨の相談>

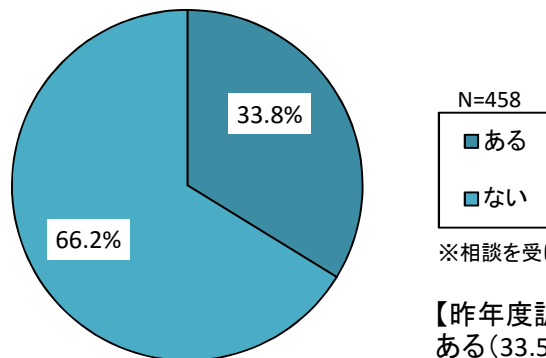
「受けた」 44.2%
 そのうち、企業に相談した大学等 33.8%

【学生から授業、ゼミ、実験などの時間と面接等の日程が重なったため企業に配慮してほしい旨の相談を受けたことはありましたか】



【昨年度調査】
 N=1,005
 ある(43.7%)
 ない(52.0%)
 無回答(4.3%)

【学生の相談を受け、大学(就職支援担当部署やキャリアセンター)から企業に相談をしたことがありましたか】



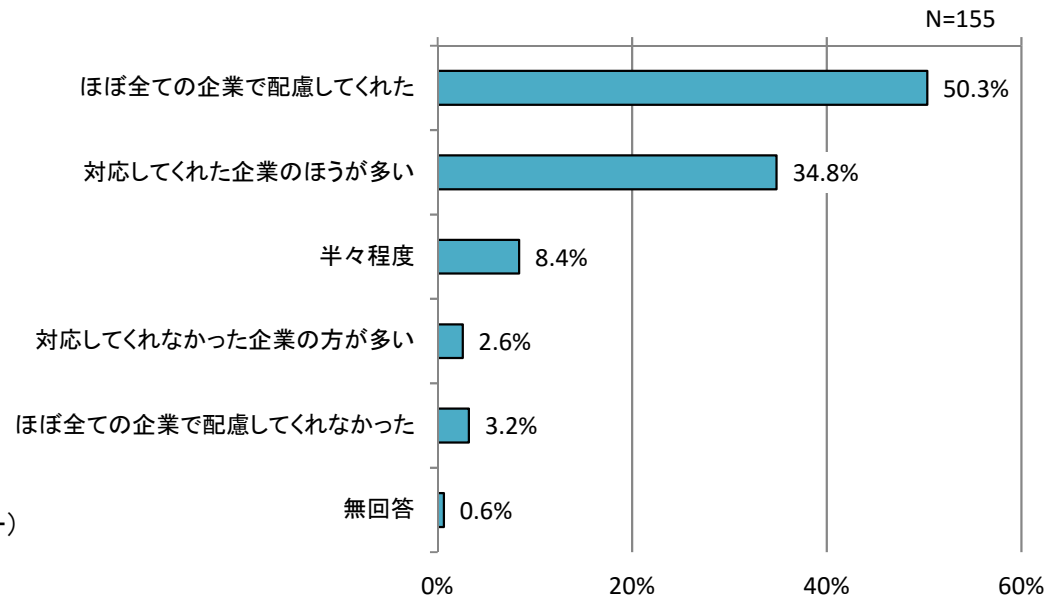
※相談を受けたと回答した458校に質問

【昨年度調査】N=439
 ある(33.5%)、ない(66.5%)

<企業の対応>

「ほぼすべての企業で配慮してくれた」 50.3%
 「対応してくれた企業のほうが多い」 34.8%

【大学から企業に相談した結果、企業は配慮してくれましたか】



※大学等から企業に相談した155校に質問

【参考:昨年度調査】N=147

- ・ほぼ全ての企業で配慮してくれた(39.5%)
- ・対応してくれた企業のほうが多い(36.7%)
- ・半々程度(11.6%)
- ・対応してくれなかった企業のほうが多い(10.2%)
- ・ほぼ全ての企業が配慮してくれなかった(1.4%)
- ・無回答(0.7%)

就職・採用活動におけるハラスメント的な行為

<大学等への相談有無>

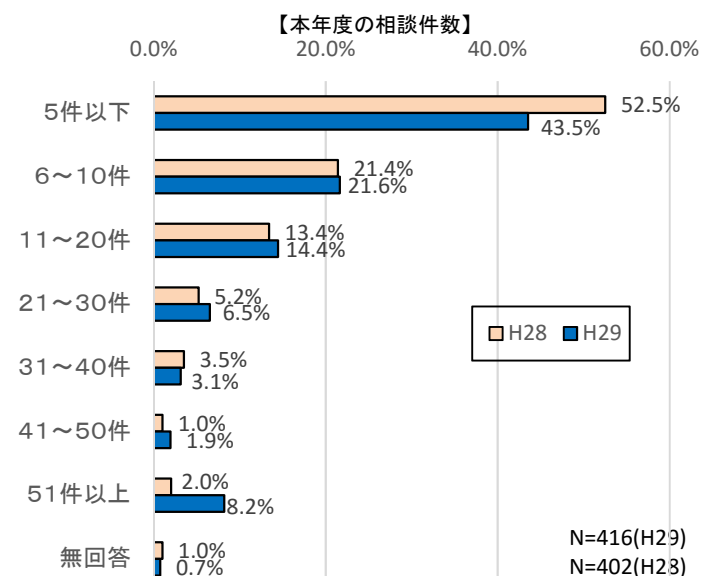
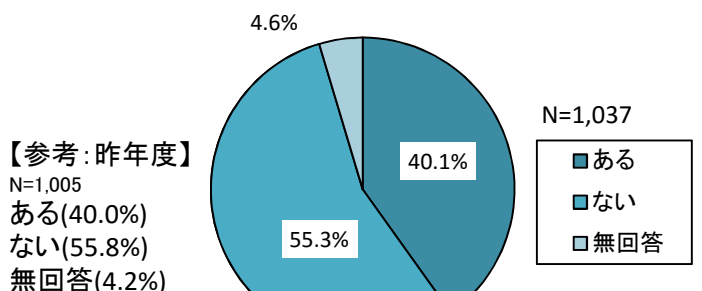
「ある」 40.1% (+0.1ポイント)

<相談件数>

「5件以下」 43.5% (▲9.0ポイント)

「51件以上」 8.2% (+6.2ポイント)

【学生の意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為について、相談を受けたことはありましたか。】

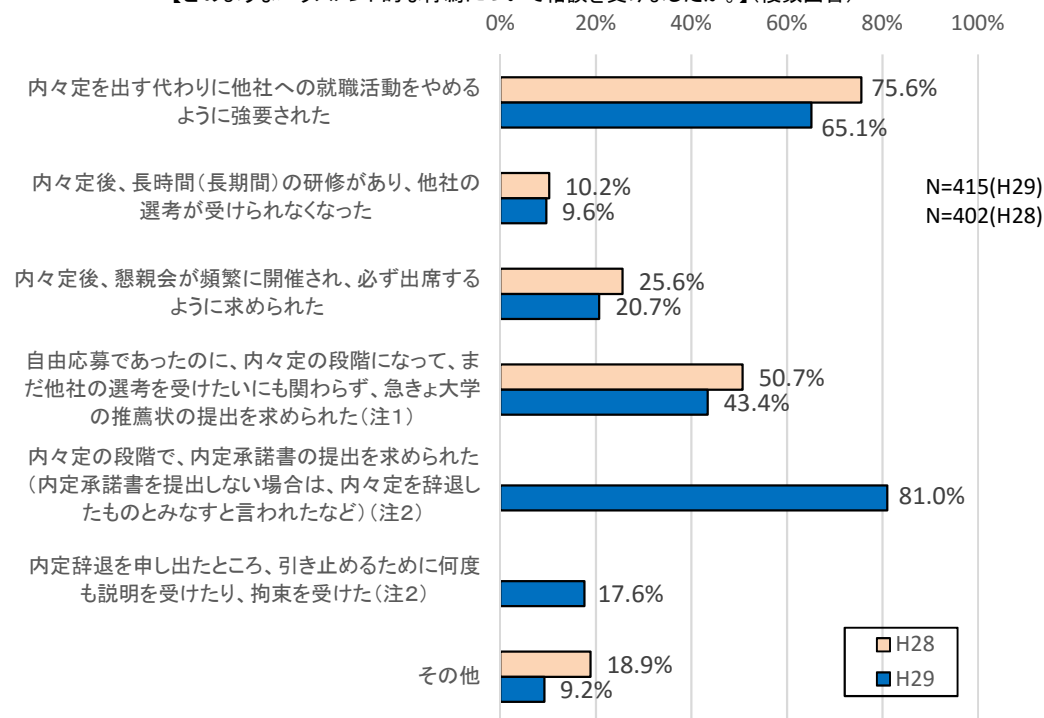


※3月1日から8月1日までの相談件数を回答
※相談を受けたと回答した416校に質問

<相談内容>

- 「内々定の段階で内定承諾書の提出を求められた」(81.0%)が最も多く、続いて「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」(65.1%)、「自由応募であったのに、内々定の段階で急きょ大学の推薦状を求められた」(43.4%)
- 昨年度と比べると「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」は▲10.5ポイント、「内々定後、懇親会が頻繁に開催され、必ず出席するように求められた」は▲4.9ポイントとなった。

【どのようなハラスメント的な行為について相談を受けましたか。】(複数回答)



(注1)H28は「内々定後、もともと大学の推薦状の提出は求めていなかったのに、推薦状を速やかに提出するよう求められた」という選択肢であった。

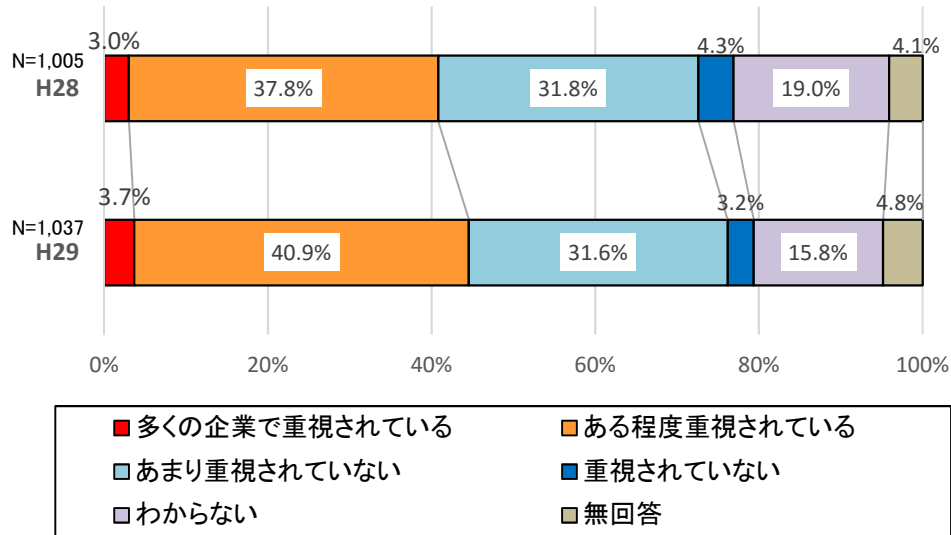
(注2)H29に新た追加した選択肢

採用選考活動における学生の評価

- ◆ 学業成果(成績や履修履歴等)が企業の採用選考活動で「重視されている」(44.6%)
- ◆ 学業成果を表す書類を活用した面接が「行われている」(66.2%)
- ◆ 昨年度と比べると、
「重視されている」は3.8ポイント増加。「行われている」は9.6ポイント増加。

※「重視されている」とは「多くの企業で重視されている」、「ある程度重視されている」の合計
 ※「行われている」とは「多くの企業で行われている」、「少しの企業で行われている」の合計

【採用選考活動において学生を評価する際に大学における学業成果(成績や履修履歴等)が重視されていると思いますか】



【学業成果を表す書類(例えば、成績証明書や履修履歴等)などを活用した面接が行われていると思いますか】

